

立命館大学大学院
2022年度実施 入学試験
博士課程前期課程

文学研究科

人文学専攻・日本史学専修

入試方式	実施月	コース	専門科目		外国語(英語)	
			ページ	備考	ページ	備考
一般入学試験	9月	研究一貫	×		×	
	2月		×		×	
	9月	高度専門	×			
	2月		×			
社会人入学試験	9月	研究一貫	×			
	2月		P.1~	外国人留学生入試と共通		
	9月	高度専門				
	2月					
外国人留学生入学試験	9月	研究一貫	×			
	2月		P.1~	社会人入試と共通		
	9月	高度専門	×			
	2月		×			
学内進学入学試験	9月	研究一貫				
		高度専門				
学内進学入学試験 (大学院進学プログラム履修生対象)	2月	研究一貫				
		高度専門				
APU特別受入入学試験	9月	研究一貫				
		高度専門				

【表紙の見方】

×・・・入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの
斜線・・・学科試験(筆記試験)を実施しないもの

立命館大学大学院
2022年度実施 入学試験

博士課程後期課程

文学研究科

人文学専攻・日本史学専修

入試方式	実施月	外国語(英語)	
		ページ	備考
一般入学試験	2月	P.7~	
外国人留学生入学試験	9月		
	2月		
学内進学入学試験	2月		

【表紙の見方】

×・・・入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの
斜線・・・学科試験(筆記試験)を実施しないもの

※試験終了後、ホッチキスで綴じること(太線の4箇所)

2023年度 立命館大学大学院文学研究科入学試験問題

2023年2月11日

博士課程前期課程 人文学専攻
日本史学専修

「専門科目」

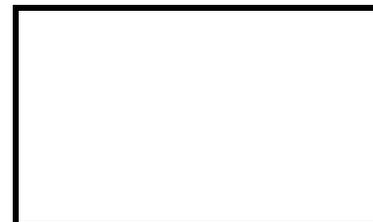
全 10 ページ

●受験上の注意

- ① 試験中、冊子をばらしても構わないが、終了後再び綴じて提出すること
(ホッチキスを貸与します)
- ② 全ての用紙に受験番号、氏名等を記入し、提出すること

●試験中の持込許可物件について

- ① 筆記用具、受験票、時計以外の持込は認めない



文学研究科入学試験答案用紙

公開用P.2

専攻・専修名 人文学専攻 (日本史学専修)	課程 前期課程	科目 専門科目	コース <input type="checkbox"/> 研究一貫	受験番号	氏名
-----------------------------	------------	------------	--------------------------------------	------	----

問一 次の四題から一つを選んで論述せよ。

- (一) 天平期の日本をめぐる国際関係について論述せよ。
- (二) 本中世の対外関係について、時期を区切りながら論述せよ。
- (三) 徳川家綱政権の史的意義について論述せよ。
- (四) 日本近現代史上の「転換点」を一つ設定し、それについて論述せよ。「転換点」は政治、経済、思想、外交、社会、文化などどんな分野のものでも構わない。

問二 次の五つの語句から四つを選び、それぞれ三〜五行程度で説明せよ。

- ① 貢進物付札
- ② 六勝寺
- ③ 太平記評判秘伝理尽鈔
- ④ 地方改良運動
- ⑤ 古都税問題

文学研究科入学試験答案用紙

公開用P.3

専攻・専修名 人文学専攻 (日本史学専修)	課程 前期課程	科目 専門科目	コース <input type="checkbox"/> 研究一貫	受験番号	氏名
-----------------------------	------------	------------	--------------------------------------	------	----

問三 次の史料問題 (一)～(四)の中から二つを選び。解答せよ。

(一) 次の史料を書き下し文に改め、かつ解釈せよ。

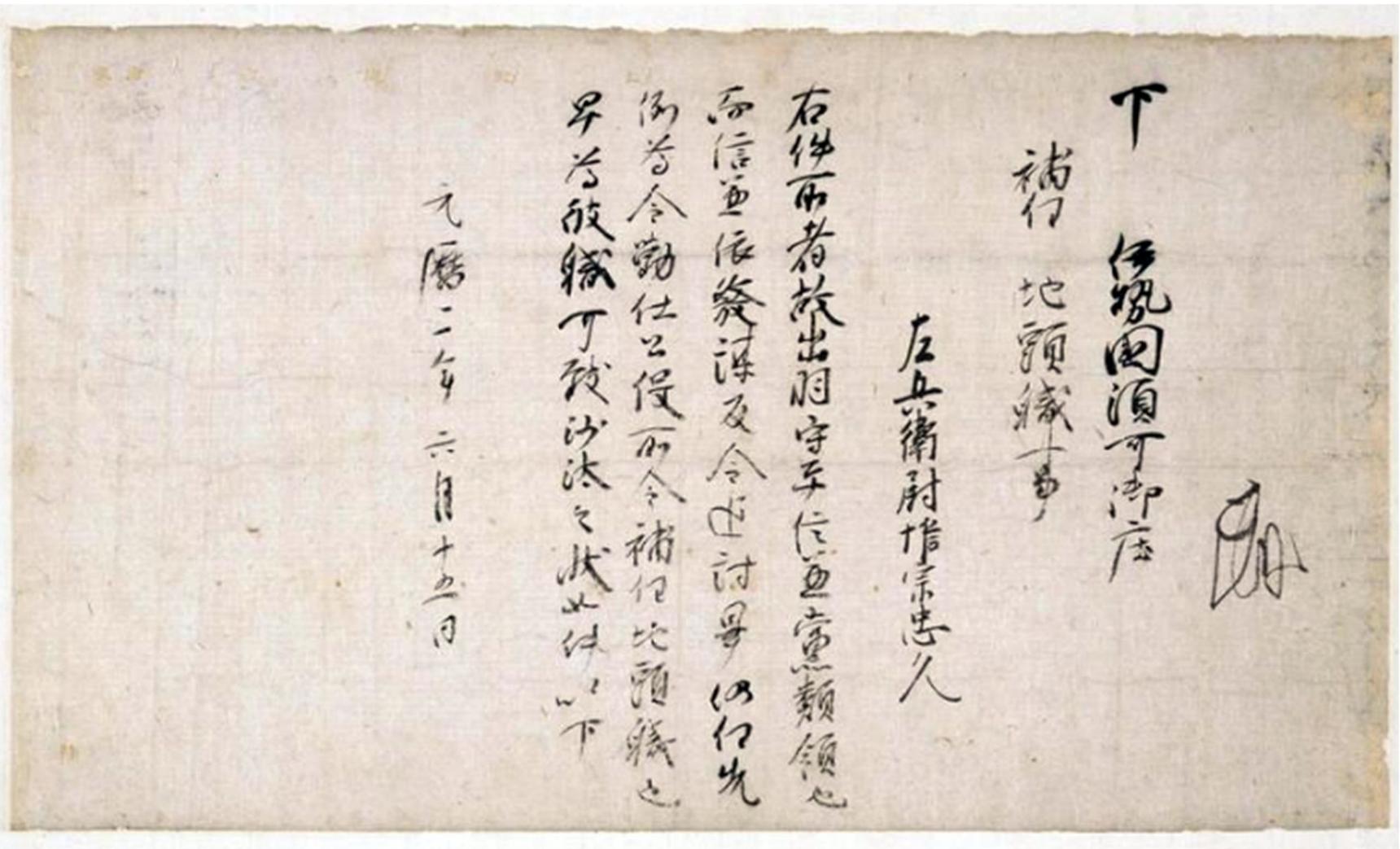
勅大史奏云案九宮経来年己亥當会三合其経云三合之歳有水旱疾疫之災如聞摩訶般若波羅密多者是諸仏之母也四句偈等受持読誦得福德聚不可思量是以天子念則兵革災害不入国裏庶人念則疾疫癘鬼不入家中断悪獲祥莫過於此宜告天下諸国莫論男女老少起坐行歩口閑皆盡念誦摩訶般若波羅密其文武百官人等向朝赴司道路之上每日常念勿空往来庶使風雨隨時成無水旱之厄寒温調気悉免疾疫之災普告遐迩知朕意焉

黒板勝美・黒板勝美・国史大系編集会『続日本紀前篇』吉川弘文館、一九七六年、二五四頁

専攻・専修名 人文学専攻 (日本史学専修)	課程 前期課程	科目 専門科目	コース □研究一貫	受験番号	氏名
-----------------------------	------------	------------	--------------	------	----

- (二) 次に示す図版(古文書)のコピーに関する、設問(1)～(3)に答えよ。
- (1) この古文書の釈文を作れ。改行は原文通りに行い、返り点・読点を付け、異体字・正字(旧漢字)は対応する常用漢字(新字)があれば、その類に改めよ。
- (2) この古文書の読み下し文(書き下し文)を作れ。
- (3) 本文書が出されたことの意味は何か。文書の内容から、本文書が出される直前期の状況を想定しながら論ぜよ。

[出典] 島津家文書 (東京大学史料編纂所蔵史料データベース)
<https://chionimg.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/view/ldata/T18/1/1/00000004>



文学研究科入学試験答案用紙

公開用P.5

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学専攻 （日本史学専修）	前期課程	専門科目	□研究一貫		

(三) 次の史料を読み、(1)～(4)の問いに答えよ。

猶々、打立之日限相通候之時、聊以不可延引候、以上、

旧冬以来致相談候唐人之儀、寔々前代未聞之故、萬可難成之通案中候、(A) 雖然皆同無残所被仰付候間、涯分諸篇可被入御精事此節候、儲者從京都一左右次第可罷立候、以其前自爰元可有注進、(B) 其翌日栗野へ致参着、可被成御供事專一候、為後日染筆候訖、恐々謹言、

正月廿七日 義弘（花押）

龍伯（花押）

喜入式部太輔殿

（出典『旧記雑録』後編卷二十七）

(1) 差出人の「龍伯」とは誰か。姓名を答えよ。

(2) この文書は何年に出されたものと推測されるか。和暦で答えよ。

(3) 下線部 (A) を現代語訳せよ。

(4) 下線部 (B) をすべて平仮名に読み下せ。

文学研究科入学試験答案用紙

公開用P.6

専攻・専修名 人文学専攻 (日本史学専修)	課程 前期課程	科目 専門科目	コース □研究一貫	受験番号	氏名
-----------------------------	------------	------------	--------------	------	----

(四) 次の史料を読み、以下の設問に答えよ (なお、史料は一部を読みやすく改めている)。

拝啓。爾後各位彌以御壮栄御尽務、大賀至極奉存候。さては滞米も不凶長引に相成候處、漸く去月渡欧之運にいたり、是よりは各国格別手間取候事も有之間敷かと奉存候。米国出立之始末も大略得貴意候通に御座候得とも、^③實に百余日間之事も一稍時間に水泡に属し候而已ならず、彼の政府へ対し候而も面目も不相立赤顔無此上仕合、必竟は弟等其任に不堪所以、深く奉恐入候。

木戸公伝記編纂所『木戸孝允文書第四』日本史籍協会、一九三〇年、三八二頁

- (1) 書簡全文をひらがなになおせ。
- (2) この書簡は木戸孝允から内閣員に対して送られたものである。明治何年の書簡か。
- (3) 下線部③について、知る所を述べよ。

※試験終了後、ホッチキスで綴じること(太線の4箇所)

2023年度 立命館大学大学院文学研究科入学試験問題

2023年2月11日

博士課程後期課程 人文学専攻
日本史学専修

「外国語」(英語)

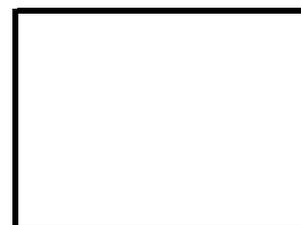
全 3 ページ

●受験上の注意

- ① 試験中、冊子をばらしても構わないが、終了後再び綴じて提出すること
(ホッチキスを貸与します)
- ② 全ての用紙に受験番号、氏名等を記入し、提出すること

●試験中の持込許可物件について

- ① 筆記用具、受験票、時計以外の持込は認めない



文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	受験番号	氏名
人文学専攻 (日本史学専修)	後期課程	外国語 (英語)		

次の英文を和訳せよ。

It may be a truism to say that liberation and freedom are not the same; that liberation may be the condition of freedom but by no means leads automatically to it; that the notion of liberty implied in liberation can only be negative, and hence, that even the intention of liberating is not identical with the desire for freedom. Yet if these truisms are frequently forgotten, it is because liberation has always loomed large and the foundation of freedom has always been uncertain, if not altogether futile. Freedom, moreover, has played a large and rather controversial role in the history of both philosophic and religious thought, and this throughout those centuries – from the decline of the ancient to the birth of the modern world – when political freedom was non-existent, and when, for reasons which do not interest us here, men were not concerned with it. Thus it has become almost axiomatic even in political theory to understand by political freedom not a political phenomenon, but on the contrary, the more or less free range of non-political activities which a given body politic will permit and guarantee to those who constitute it.

Excerpt from *ON REVOLUTION* by Hannah Arendt, copyright © 1963, 1965 by Hannah Arendt; copyright renewed © 1991 by Lotte Kohler.

Used by permission of Viking Books, an imprint of Penguin Publishing Group, a division of Penguin Random House LLC. All rights reserved.